

学生企画のボランティア活動は、住友商事・東日本再成ユース
チャレンジプログラムから助成を受けています。

ボラスステ新聞

2015年度
第6号

二〇一五年
十一月十六日
発行

ボランティアの難しさを知る

台風18号による災害ボランティア

9月20日大崎市

9月21日・10月24日大和町

台風18号の影響によって被害を受けた大崎市古川へ、災害ボランティア活動に行ってきた。被災されたお宅に入り、水に浸かってしまった家具や畳の運び出し、解体などの作業を東北学院大学さんと合同で行ないました。家主さんのご指示のもと、午前中から始まった作業でしたが、午後4時ごろには、家具や畳はすべて運び出し、掃除やごみの分別も済ませることができました。

家主さんに何度も「ありがとう」と感謝の言葉をいただいたことを、私はとてもありがたく感じました。

お昼休憩の時間に、今回のボランティアの企画をした方から、

「被災の直後は心の整理もついでにないということもあり、片付けのお手伝いに行こうとしても、同じ地区の方や近所の方でさえ、受け入れてもらえなかった」というお話を聞きました。

帰り際に見た、片付いた自分の家をもの寂しそうに見つめる家主さんの姿に、私はなんとも言えない気持ちになりました。

普段の仮設住宅の皆さんとの交流や、お祭りなどのお手伝いといった、楽しい雰囲気の中で活動するのはまた違い、相手の状況や気持ちをよく考え、行動に移す難しさを強く感じました。そして、少し立ち止まって考える機会になりました。

(人間心理学科一年

小笠原みなみ)

歌え！踊れ！

我こそ一番！

カラオケ&演芸会

10月3日、尚絅学院大学多目的ホールにて、市民交流サロンカラオケ&演芸会が開催されました。私は、合唱で Believe を手話でやりました。私は聴覚障害者で、聴覚支援学校に通学していたことがあります。しかし、日常的に手話を使わなくなったあまり、忘れた言葉もありました。一週間ぐらい動画を見ながら練習し、当日を迎えました。

本番では、緊張から間違えた部分もありましたが、参加した方々から「よかったよ！」とお褒めの言葉をいただき、嬉しかったのを忘れられません。この言葉のおかげで、次こそは成功させようと前向きになれました。

また、私の今回の目標は「少



しでも自分から話しかける」でした。「たくさん」はできませんでしたが、それでも参加した方との会話を楽しみ、少しでも笑顔になつてもらうことができたと思います。

皆さんとの触れ合いや、サポートなど貴重な経験ができた活動でした。ありがとうございました。11月7、8日に開催される復興音楽祭に出場されるみなさん、優勝目指して頑張ってください！

(人間心理学科一年 三好澄香)



編集 後記

先日、名取文化会館で復興音楽祭行われました。楽器演奏や合唱、ダンスなど、各団体さんそれぞれ素晴らしい発表でした。音楽祭については、ボラスステ新聞でも書いていきたいと思いますので、どうぞご覧ください。(表現文化学科3年 渋谷)